

□ 一九世紀の日本「発見」―旅行と旅行記の中の異文化像―（一九九八・二〇〇一年度）

一九九八年度

〈第一回研究会〉 一九九八年四月二五日・二六日

メンバー紹介／趣旨説明／発表テーマ（案）開陳

〈第二回研究会〉 一九九八年五月二三日・二四日

長田俊樹「一九世紀の日本語『発見』―博言学から言語学へ」

伊藤久子「二英国女性の日本周遊―レイ夫人の旅行記から」

〈第三回研究会〉 一九九八年六月二七日・二八日

ビン・シン「ベトナム知識人が見た明治日本―潘佩珠の場合」

クリストフ・マルケ「チュルヌスキとデュレが見た明治四年の日本」

稲賀繁美「セルヌーシとテオドル・デュレのアジア旅行 一八七

一・七二」

〈第四回研究会〉 一九九八年九月二六日・二七日

ポーリン・ケント「ルース・ベネディクトと日本」

白幡洋三郎「ペリー艦隊報告書の挿絵」

〈第五回研究会〉 一九九八年一〇月三一日・三十一日

天野史郎「フランス遍歴職人の旅」

ペーター・パンツァー「絵はがきの中の日本像」

〈第六回研究会〉 一九九八年一二月一九日・二〇日

嘉本伊都子「明治期『国際結婚』観」

園田英弘「西洋人の旅行」

一九九九年度

〈第七回研究会〉 一九九九年四月二四日・二五日

西田正憲「瀬戸内海の発見」

長島要一「在デンマーク日本関係資料の紹介」

〈第八回研究会〉 一九九九年五月二九日・三〇日

白幡洋三郎「日本イメージの変遷―イザベラ・バードの富士」

金坂清則「イザベラ・バード論と日本の旅そしてブランドン日本図」

〈第九回研究会〉 一九九九年六月二六日・二七日

坂井洲二「ドイツ商人幕末をゆく」

唐 権「一九世紀における中国文人の日本発見―王韜の『扶桑遊』をめぐる」

〈第一〇回研究会〉 一九九九年一〇月二日

ヴラディスラフ・ニカロピッチ・ゴレグリアード

「在ロシア日本関係資料について」

原田信男「ハイニンリツヒ・フォン・シーボルトの北海道旅行」

〈第一二回研究会〉 一九九九年一月三日・一四日

高田公理「クローウ『日本内陸紀行』について」

頼富本宏「四国遍路の旅人性―目的・動機の変遷を通して」

〈第二二回研究会〉 一九九九年二月二八日・一九日

劉 建輝「近代ツーリズムの成立と日本作家の中国『発見』」

マーク・メリ「リチャード・ゴードン・スミスの旅行記」

二〇〇〇年度

〈第二三回研究会〉 二〇〇〇年四月二日・二二日

ベッカ・コルホネン「北欧における一九世紀の日本『発見』―主にヌールデンシヨルドとチリアクスの日本旅行記」

申 昌浩「紳士遊覧団の李鏞永が見た日本―『日槎集略』を読む」

〈第一四回研究会〉 二〇〇〇年五月九日・二〇日

井波律子「黄慶澄『東遊日記』について」

園田英弘「石炭を求めて―一九世紀の四〇・五〇年代の二つの旅」

白幡洋三郎「ペリー艦隊報告書の挿絵について」

〈第一五回研究会〉 二〇〇〇年六月一七日・一八日

吉田憲司「〈他者〉のみた日本・日本のみた〈他者〉―一九七・九八

『異文化へのまなざし』展から」

畑 智子「万国博覧会における「日本」の展示―一八七六年フィ

ラデルフィア博、一八九三年シカゴ博、一九〇四年セントルイス博」

〈第一六回研究会〉 二〇〇〇年七月八日・九日

マリ―ルイゼ・レーゲラント「異文化像の発生―一九世紀の欧

米人旅行者の温泉体験（見学）記を巡って」

長田俊樹「ヘンリー・サヴェッジ・ランドーの探検―単独行・源

流行・横断行」

白幡洋三郎「外国人の日本体験―保津川下り」

〈第一七回研究会〉 二〇〇一年一月二七日

蔡 敦達「中国文人が観た明治日本―旅行記を読む」

白幡洋三郎「我的北京滞在記」

〈第一八回研究会〉 二〇〇一年二月一七日・一八日

井上章一「キリスト教と仏教―一六世紀から一九世紀まで」

白幡洋三郎「三年間の共同研究会をふりかえって」

〈第一九回研究会〉 二〇〇一年三月一〇日・一一日

原田信男「一九世紀におけるヨーロッパの『琉球』認識―蝦夷と

の比較を念頭に」

柴山哲也「米国世論が発見した日本―ペリー来航時のアメリカのジャーナリズム」

テモテ・カーン「"Letters from the wife of a port chaplain in Japan" by Buchnill Evy」

□ 旅の「情報」と「表現」―交流と孤立から見た日本文化史の再検討―(二〇〇二・二〇〇四年度)

二〇〇二年度

〈第一回研究会〉 二〇〇二年五月二日・一二日

白幡洋三郎「趣旨および方針説明」

全員討論「今後の進め方」

〈第二回研究会〉 二〇〇二年七月二日・一三日

白幡洋三郎「新着資料の紹介」

全員討論「旅の「表現」に関する研究の現状」

〈第三回研究会〉 二〇〇二年十一月三〇日・十二月一日

白幡洋三郎「新収〈絵入り本〉〈名所図会もの〉について」

早川聞多「近世艶本の流布について」

二〇〇三年度

〈第四回研究会〉 二〇〇三年四月二七日・二八日

白幡洋三郎「図会関係資料の収集について」

錦 仁「冥土蘇生記・地獄絵に見る「旅」

浅見和彦「国文学の旅」

全員「図会並びに旅関係資料の検討」

〈第五回研究会〉 二〇〇三年六月二二日・二三日

早川聞多「『京都名勝図絵』のデータベース化」

原田信男「日本中世の交流史―『人とモノと道と』から」

〈第六回研究会〉 二〇〇三年七月一五日・一六日

唐 権「明清時代の旅行案内書について」

白井哲哉「日本近世地誌にみる「孤立」と「交流」

〈第七回研究会〉 二〇〇三年十一月一五日・一六日

フレデリック・クレインス「一七一―一八世紀ヨーロッパにおける

日本観」

錦 仁「菅江真澄の地誌作成法―だれのための地誌か」

〈第八回研究会〉 二〇〇三年二月六日・七日

コンスタンチン・ヴァポリス「参勤交代に見る旅の「表現」と「情報」

小松正史「サウンドツーリズムのススメ」

二〇〇四年度

〈第九回研究会〉 二〇〇四年四月二四日・二五日

福山市鞆の浦にて開催 福山市鞆の浦歴史民俗資料館見学

案内・壇上浩二、西田正憲

西田正憲「紀行文にみる鞆の浦」

〈第一〇回研究会〉 二〇〇四年一〇月二三日

李 偉「三つの「借」景—小石川後楽園に借景はあったか」

早川聞多「舟木本・洛中洛外図屏風にみる都市観」

〈第一二回研究会〉 二〇〇四年一月二七日

申 昌浩「花見をすると敲き—〇〇回—旅を禁じる儒教文化」

原田信男「江戸の小さな旅—雑司ヶ谷鬼子母神」

〈第一二回研究会〉 二〇〇四年二月一八日

高橋伸子「旅館」の定義—北海道観光の展開からの考察」

浅見和彦「女の旅、聖の旅 附・庶民の旅」

□ 国際研究集会『旅と日本「発見」—移動と交通の文化形成力』（二〇〇五年三月）

二〇〇五年三月七日

（全体司会） テモテ・カーン （挨拶） 山折哲雄

池内紀「日本人の旅—発見の楽しみ」

パネル・ディスカッション「日本の旅・日本への旅」

白幡洋三郎（司会）・錦仁・原田信男・巖安生

二〇〇五年三月八日

第一セッション（座長） 神崎宣武 （挨拶） 白幡洋三郎

錦 仁「旅人の発見—堀秀成の『秋田日記』、イザベラ・バード

と比較して」

濱名 篤「海外団体パッケージ・ツアーの普及と土産物店での購

買行動」

コンスタンチン・ヴァポリス「藩士の参勤交代をめぐる諸視点」

第二セッション（座長） 原田信男

高橋伸子「北海道観光の展開」

ドウアンチャイ・ロタナワニット「国家と地方アイデンティティ

の構築—北タイのメホンソン県における観光政策のジレンマ」

第三セッション（座長）唐 権

原淳一郎「寺社参詣における書物の機能」

ビン・シン「ファン・ボイチャウ（潘佩珠）が見た明治日本」

多田伊織「あこがれのハワイ航路―アジアにとつての「西」、西洋

にとつての「東」」

二〇〇五年三月九日

エクスカーション

二〇〇五年三月一〇日

第一セッション（座長）井上章一

巖安生「時代の変遷と共に変る中国から日本への旅のイメージと

風景」

フレデリック・クレインズ「オランダ商館型日本観と鎖国」

朴銓烈「門付芸について」

第二セッション（座長）浅見和彦

白井哲哉「名所化する遺跡・廃墟」

西田正憲「風景画家による日本の自然「発見」」

第三セッション（座長）長田俊樹

天野史郎「旅するコンパニオン」

申昌浩「旅を禁じる儒教文化」

唐 権「名勝図会の誕生―清代における日中文化交流に関する

一考察」

二〇〇五年三月一日

第一セッション（座長）申 昌浩

原田信男「江戸の小さな「旅」」

高田公理「遊郭への「旅」―楽しみとヒーリング」

浅見和彦「女の旅、庶民の旅」

第二セッション（座長）阿部文司

園田英弘「スンダ海峡からマラッカ海峡へ―幕末オランダ留学六

年間の旅行ルートの変化」

ウィリー・ヴァンデワラ「旅と政変―幕末・明治初期を旅行した

白山（モンブラン）伯」

第三セッション（座長）園田英弘（副座長）菊池優子

白幡洋三郎「総括討論への問題提起」

全員「統括討論」

二〇〇五年三月二日

公開講演会（全体司会）テモテ・カーン

ペーター・パンツァー「旅のなかの異文化像」

白幡洋三郎「旅と日本『発見』―国際研究集会報告」